（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490400047		
法人名	社会福祉法人　青山里会		
事業所名	グループホーム　あおぞら		
所在地	三重県亀山市羽若町字西野834－41		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町提出日	平成26年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2490400047-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成26年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の御利用者の外出等の希望や要望があれば、可能な限り実現出来るよう支援を行っている。グループホーム内だけで過ごすのではなく外食や行事参加も積極的に支援し日々を楽しく過ごしてもらえるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

市街から比べて高台に立地し、すぐ近くには市役所・福祉センター・医療センターがあり、社会資源に恵まれた環境である。また、同一法人の老健も近く、外出時に介護車両を借りたり、職員研修を一緒に行うなど協力体制がとれている。二つのユニットがそれぞれの職員全員で考えた理念を掲げ、日々の実践につなげている。家族の協力体制がしっかり得られ、利用者・家族・職員の輪のもとに、住み心地のよいアットホームな終の棲家を目指している。晴天に恵まれた調査日の朝には、各居室の前にほぼ全員の利用者の布団が干されており、職員のきめ細かい心遣いが伺われた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアワーカーの理念とユニットの理念を職員・御利用者・御家人の目の付きやすいリビングに張り出している。理念に基づきケアにあたる様に努めている。	法人の理念を基に、二つのユニットがそれぞれの理念をリビングに掲げている。今年度職員全員の話し合いで決めた新しい理念を大切にし、日々の介護に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援を行い、近くの飲食店に行ったり、地域の交流会に参加して、地域の方々と交流する機会を出来るだけ多く持てるよう努力している。	地域との繋がりは密で、地域の盆踊り大会『夏祭り』に参加したり、文化祭に利用者の作品を出品すると共に観賞に出掛けている。また、“あいあい祭り”では福祉関係の事業所合同でブースを出すなど連携は取れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ、地域貢献出来ていないが、今後は地域の行事等の積極的に参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家人にも参加していただきグループホームでの近況報告や行事予定やご利用様の様子報告を行い、参加していただいた方々から質問・意見をいただいている。	2か月毎に、自治会長、市の職員、利用者、家族などが出席して行われている。時事の案件や出席者からの要望や提案について意見を交換し、そこで出された提案は職員で検討し日々の実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会へ参加していただき、意見・助言等いただいたり、報告書の配布やあおぞら便りの配布を行ったりと密に連絡を取るように努めている。また、役所に当苑のパンフレットを置かせていただいている。	今年度から市の職員も出席する『亀山市地域密着サービス事業所連絡会』が発足し、以前にも増して市と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が、身体拘束になるのかを話をしたり、確認して拘束しないケアを行っている。玄関の施錠については解除時間を長くするように努めている。	日々の介助でどんなことが拘束にあたるのかを職員間で話し合っている。利用者の言葉を否定せず、先ず受け入れてからその言葉が出てきた背景に何があるのかを推し量っている。安全を確保するために使用時以外の浴場の施錠や、見守りが手薄になる時間帯は玄関の施錠は行っている。	身体拘束について実務での指導はできているが、基本的な知識を習得するための職員研修が確認されなかった。職員のスキルアップと意思統一を図るための研修を計画し実施されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういう事なのかを話しあい、虐待のないケアを行っている。また、御利用様の状態観察を行い職員間で申し送りを行い、異変時の発見に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている御利用者様の御家人が相談にみえた際、職員間で制度について話合う機会が出来たが、まだまだ、理解不足の所があるので今後は、理解を深められるよう勉強会等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご理解頂けるよう分かりやすく説明を行い、契約後も不安や疑問等の対応が出来るよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で意見を頂き、反映出来るよう努めている。	家族との信頼関係を大切にしていて、運営推進委員会で出された意見や要望については十分に検討し、日々のケアに反映させている。「苦情・要望・依頼確認帳」を活用し、家族の思いを記録して全職員が目を通している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やミーティングで適時、相談や提案を行い、良い運営が出来るよう努めている。	何か気付きがあれば「利用者ノート」、「職員ノート」に書き込み、毎朝のミーティングで話し合いケアの場で活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時、相談や提案を行い職場環境が良好になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、研修を行い、現場では一定期間は先輩職員に付き添い御利用者の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等に参加し同業者との交流機会を持っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前調査を行い御利用者の事を把握し、入所後も常に御利用者の声に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり御家族の様々な思いなどを把握し少しでも安心して頂けるよう環境や関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御相談に来られた方で、グループホーム利用前に通所介護等からのサービス利用が御相談に来られた御利用者には適切かと判断し助言を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者本位という事を念頭におき、個々の利用者支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時等で、御利用者の状態を伝え、家族の思いを傾聴するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人暮らしをされていた自宅へ帰ったり、なかなか行けない墓参りへの支援や、家族の面会の付き添い等の支援を行っている。	家族の協力を得て、馴染みのかかりつけ医への受診や墓参り、自宅に戻り農作物の収穫をしたりこれまでの馴染みを大切にしている。職員が付き添うこともある。また、ホームでの新しい馴染みをつくっていくように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者が楽しんで頂けるよう行事やレクを考えたり、御利用者間の会話の橋渡しを職員が行い御利用同志が良好な関係が保って頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所の利用者が他施設に入所されても、様子を伺いに行ったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出希望のある方には、出来るだけ支援出来るよう業務内容を工夫し対応出来るよう努めている。	利用者に衣服や食事について選択してもらうなど、個人の思いを大切にしている。会話が不自由な利用者には表情などから意思を汲み取るようにしている。職員間で共有できるように「介護計画連絡ノート」に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、事前調査を行い、御利用者の生活歴を出来るだけ把握し、職員が共有出来るよう入所前にアセスメントシートなどで申し送りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い状態把握に努め、その時の状態に合ったケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者の日々の言動に注意をはらい御家族には面会時等で意見を頂いたり、相談を行い、職員間でも意見を出し合い必要に応じてプランを見直している。	利用者毎の担当職員が毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画担当職員と関係職員で3ヶ月を集約したモニタリングが行われ、概ね3ヶ月毎にカンファレンスしてプランの見直しをしている。利用者の状態に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやユニットミーティングで、利用者への気付きや変化の情報を共有し、対応方法について話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への付き添いや家人の面会の付き添い等希望があれば可能範囲で対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回介護相談員が訪問し利用者の声を聴いて頂いたり、状態をみて頂いている。運営推進委員会には自治会長様にも参加して頂き助言等頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者・御家族と相談を行いその時の状況に応じて受診を行う医療機関を決めている。定期受診は1人1人の主治医に受診してもらい、その際日々の様子を報告し助言頂いている。	基本的には入居以前にかかっていたかかりつけ医に家族が付き添って受診をしているが、家族の都合で職員が付き添うこともある。緊急時には協力医の医療センターに搬送することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいない為、病院受診時に医師に相談したり、電話での相談を行い助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は病院側に介護サマリーを提供し、御利用者の状態を報告している。再入所時には事調に行き御利用者の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族が最期までグループホームでの生活を希望される場合は、ターミナル期には医師への相談や往診を依頼し、終末期のケアに取り組んできたケースが1事例ある。利用者の重度化に向け、ご家族の意向を確かめるようにしている。	利用者や家族の希望があれば看取り支援を行う方針である。職員もホームでの看取りを受け入れてはいるが、まだ知識や技術が必要と感じている。今後は職員の研修を計画し事業所としての指針を作成していくつもりでいる。	看取りにあたり事業所が看取り指針を作成して職員が不安なく自信を持って対応できるような研修を計画し、事業所・職員・関係者が十分話し合い、三者が納得のうえ、家族に協力してもらえるような体制作りを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実施出来ていない。新人職員も増えたので急変時の対応等について再度学ぶよう勉強会や講習会等への参加をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いのもと、訓練を行っている。今後は地域の方とも協力体制が摂れるよう努めていきたい。	津波や河川の氾濫、山崩れの心配のない恵まれた立地条件であるが、消防署の協力を得て年に2回の防災訓練、防火訓練を実施している。また、災害に備え、備蓄もされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いやプライドやプライバシーを傷つけないよう常に心がけ業務を行っている。また、職員同士気付いた事があれば注意喚起を行っている。	居室に入る時のノックなど、小さな事でも声がけに気を配るよう職員間で話し合っている。利用者の言葉を否定しないことを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で御利用者一人一人の希望が汲み取れるよう傾聴や対話を心がけ、自己決定しやすいよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法や行事等へのお誘いの声掛けを行い、御利用者の自己決定に委ね、希望に沿って参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や外出時前にはご本人の好きな服を一緒に服を選んでもらったりして、おしゃれや身だしなみを整えてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者の食べたい物を聴いて買い物に行き、食事を提供している。食事の下準備や盛り付け等本人の意向を確かめながら一緒に行っている。	利用者の食べる意欲を大切にするため、職員が利用者の希望を聞いてメニューを決め、買い出しから調理まで全て手作りしている。利用者も調理の下、準備や盛り付け・後片付けまで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後には電解質飲料を飲んでもらったり、定期的に水分補給していただいている。食事摂取量が少なくなってきた方には食べれる物を提供したり栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で出来る方には、声掛け支援を行い、難しい方には食後の口腔ケアや就寝前の口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人一人に合った排泄支援方法を行っている。	重度化した1名を除き、ほぼ全員がトイレで排泄をしている。タイミングを見計らって声かけをしているが、自立している利用者も数名いる。病院から入居してきた利用者の殆どが改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通が良くなるような食事や飲料を提供したり、体操をしていただくよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については全て御利用者の希望通りには実施出来ていないが、出来る限り希望に合った対応に努めている。	基本的には週に3回、午前・午後を問わず入浴している。浴室は個浴で、大きめの埋め込み式浴槽である。ゆず湯やショウガ湯など季節感の演出もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者の個々の状態や状況に合わせて居室やソファで休んで頂いている。不眠時には傾聴したり寄り添い不安解消に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が変更になった際は申し送りや連絡ノートで情報を共有し、御利用者の状態の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりや料理の下準備や居室の掃除等を行って頂いている。嗜好に合ったメニューや外食を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、対応出来るよう業務内容を検討したりし支援出来るよう努めている。また、御家族にも協力を得て外出して頂いている。	近辺に四季折々の花の名所があり、花見の外出が多く、家族からも感謝されている。また、誕生日には回転ずしに出掛けることもある。日常的には、おやつの時間に芝生の庭に出て外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より興遊費を預かり、外出時や外食時に使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御自分で使用出来る方は、自由に御家族等に連絡されている。本人の希望があれば御家族に連絡に電話で話して頂いている。また、御家族からもご利用者に電話もありお話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたタペストリーを変えたり季節行事に合わせた装飾物を飾っている。	2ユニットそれぞれのリビングは個性があり、利用者合作のちぎり絵や手作りのリースが飾られている。リビングや広い廊下の天窓からは明るい日差しが差し込み居心地のよい空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが狭いが、ソファーを置いてゆったりと過ごしてみえる方もいる。天候等が良い日は玄関先や庭で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分で使用していた物や御家族の写真等を飾っている。仏壇を持ってきている方もいる。	居室入口にはそれぞれ個性的な飾りがあり、居室の窓は大きな掃き出し窓で、どの部屋からも広い庭や自家菜園が見渡せて閉鎖感がない。家具は全て使いなれた物の持ち込みで、利用者の思いを優先させている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や杖を使用したり、職員付き添い歩行支援をしたりと、御利用者一人一人に合った環境作りに努めている。		